平 成 ２５年 ９ 月

[配布先：全組合員]

市 場 情 報

日　時　　平成２５年９月６日 （金） １２時～１４時１５分
場　所　　名古屋・安保ホール
出席数　　酒 匂 委員長他　２０名（最終頁参照）
経　過

1. 酒匂委員長挨拶

環境は大きく変化

足元の状況は３か月前に比べ大きく変わってきた。建材、建機関連とも総じて堅調に推移しており様変わりの様相を呈している。母材需給もタイトになっており、売り筋が強気姿勢に転じ、母材の入手難が一部表面化しつつある。今後も、関東・中部を中心に建築関連の更なる需要増が期待される中、タイト化が一段と進むとみられ、これに伴いメーカー値上げ分をユーザー転嫁する素地が次第に固まってくるだろう。我々シャー業界はこうした環境の変化を好機にして、力強く頑張ってまいりましょう。

２．各地区の需要動向

北海道

適正利潤確保に不退転

色濃く秋の風情漂う季節だが、涼を求め北海道を訪れた人々は「今年の北海道の天候は、爽やかなイメージからすると当て外れ“全く北海道らしくない”」と　それぞれ感想を口にする。それほど７月から夏日あるいは真夏日と猛暑が続き異常気象となった。

ここにきて多少の蒸し暑さは残るものの、ようやく朝夕爽やかな秋風そよぐ過ごしやすい時期

となった。時を同じくして、いつものように山親父（ヒグマ）が餌を求めて市街地まで出没するようになってきた。

日本銀行札幌支店の発表によると 6 月の企業短期経済観測調査では、企業の景況感を示す業況判断指数（DI）が 21 年ぶりに全産業で「プラス４」となった。道内の主力産業である建設や観光の業績効果が大きく改善に繋がったものとみられている。

しかしながら、建設分野の中で民間建築や公共事業が数多く出件され始めているものの、職人の人手不足とともに人件費や関連資機材の高騰。さらには建築確認申請に対する行政の審査業務の滞留などによって、新規案件の実契約は大幅に遅れている点が憂慮される。

【鉄骨】基礎データーである建築着工統計から推計する‘13 年 1～7 月の鉄骨重量はトータル 74,100 ㌧（前年 71,600 ㌧）で対前年度比 3.4%の増加となった。

今後の需要の先行指数となる北海道機械工業会鉄骨部会道央支部が集計する‘13 年 1～8 月の共同積算数量は、累計 99,022 ㌧（前年実績 97,943 ㌧）で対前年度比 1.1%の増となった。

道内の建築は昨年からの継続物件（北海道新幹線車両基地、札幌三井 JP ビル、札幌競馬場スタンド改修）に加え、年初から発注の新規案件、新幹線新函館・木古内両駅舎や漁協荷捌き場、農業関連施設、大型物販店など相次いで本格化している。このほか、本州首都圏をはじめとした他地区の物件流入も目白押し。

こうした受注環境を反映して地場ファブリケーターの大半は、年内製作の山積みを固め順調な操業体制を見込んでいる。

地元で遅れていた民間の新規大型案件である旭川ターミナルビルや札幌中心部の再開発ビル、オフィスビル建替、函館アイスアリーナなどについても進捗する見通しにある。

また、年明けの引き合いも好調なことから業界では、価格体系の大幅な是正を図る選別受注を推し進めている。全般的に鉄骨単価は徐々に上昇傾向を辿ってはいるが、採算上の実情からするといまだ満足できる水準に達していない。

官公庁物件は補正予算と本予算の執行 3 ヶ月遅れに加え、人手不足や人件費、資機材アップにより出件が大幅に遅延している。このため、民間物件と同時平行して発注が進められると、ファブが見込んでいた需要量を大きく超え工期調整に苦慮することとなる。

今年度の最終的な鉄骨需要は、道内外の物件を合わせ前年度実績を大幅に上回るものと期待され、不採算を一掃するため、いつになく価格改善への強い機運が盛り上がっている。

【鋼橋梁】補正予算、本予算は、例年に比べ 3 ヶ月ほど成立が遅れた。3 月から 6 月の端境期対策としてのゼロ国・補正予算は、本予算とともにようやく一斉に動き始めた。

今年度は、‘12 年度大型補正予算も含め、15,000～20,000 ㌧規模へと大幅な拡大が予想されている。だが、今のところ設計済み案件が少なく、入札や積算の人手不足から発注は大幅に遅れている。

こうした中、鋼橋梁の老朽化による延命や耐震対策、補修・補強を施す落橋防止装置や鋼製床版工事などについては見積もり件数が殺到している。

鋼橋梁の補修工事は、新設に比べ多工種で小ロットの工事が多く、不採算となる場合が多いため業界では選別受注を行っているケースも見受けられる。入札段階で応募者ゼロといった不調や参加辞退などが相次いでいるという。

補修工事が不採算に陥らないよう、発注機関による歩掛かりの抜本的な見直しが強く求められている。そして、利用者の安全安心のため早期発注が待たれるところ。

【切板】道内における切板の需要構造は、周知の通り建築関連や土木・鋼橋梁向けが主体である。

鋼橋梁用については、前述の通り非常に厳しい状況を余儀なくされている。

建築用は、仕事量の急激な増加と人手不足と人件費上昇。加えて鋼材価格の値上がりなどによって、工事の発注や進捗状況に遅延が生じ加工が集中しつつある。

道内ファブの製作工場は、継続著名物件とともに新幹線駅舎や大型物販店、農業関連施設に漁港荷捌き場。本州建築案件の流入で、満杯状態とされている。具体的には 10 月から秋口以降の物件に不透明感は残されるものの、公共案件（鋼橋梁、函館アイスアリーナ、体育館）。今年末から来年に着工が見込まれる（旭川駅複合ターミナルビル、明治安田生命ビル、札幌信用金庫本店、富国生命越山ビル、再開発ビル）民間建築計画があるほか、耐震関連物件や消費税増税前の駆け込み物件も発生しそうな雰囲気にある。

こうしたファブ筋の高稼働に支えられシャー各社は、秋口から年末にむけ高い稼働率の維持が可能となっている。

需要量の回復は、切板価格の是正や収益の改善に向け逃がすことのできない絶好の機会到来である。

本州と道内建材継続物件、あるいは新規契約物件と見積もり物件それぞれが価格体系で混在化している。しかし、ようやく選別受注の条件が整ってきたチャンス。これを真剣に受け止め、一刻も早く流れに乗り切る対応に移る必要がある。

不退転の決意で鉄鋼メーカーの価格と電気料金の改正などコストアップ要因を確実に織り込み、適性利潤確保に向け業界一丸で全力投球しなければ未来は拓けない。

（玉造・西村　孝治）

東　北

震災復旧事業、徐々に進捗

沿岸部の震災復旧・整備事業は依然土木主流が続いているが、防潮堤及び水門建設も本格化してきており、岩手県では農地・林野海岸で 30 基、漁港海岸で 300 基の復旧整備が見込まれる。水産関係の冷蔵倉庫や加工場建設も盛んで、また災害公営住宅建設も進み、宮城県で 15000 戸、岩手県は 6000 戸、福島県が 3700 戸を計画している。

建築関連は仙台駅東口再開発が着工済み、地下鉄東西線も 6 月にトンネル貫通し駅舎建設が本格化、新駅周辺でのマンション建設が始まっている。仙台市太白区のあすと長町エリアでは市立病院、イオンタウン・イケアといった商業施設、復興公営住宅の建設も計画中。また仙台港背後地に東北最大級の仙台水族館が（1 万平米）今秋にも着工。沿岸地区や宮城県中央部に位置するトヨタ東北付近への物流基地の進出建設や福島県企業誘致補助金制度利用の建築案件など、太平洋側と需要の乏しい日本海側との格差が広がっている。

ただ現場職人の不足に加え設計者の不足などにより物件加工の工期が短く、切板加工においても二次加工を含んでの対応など多品種短納期のものが多い。

ＦＡＢの稼動状況はＨグレードで今年度末、Ｍグレードで年末から年明けまで確保、予定案件が決まっていけば一年分以上の仕事量がある。ただ切板となると単質が小さく枚数ばかりが多く、稼動は高いが生産量があがらず、多忙感はあるものの数字に結びついていかないのが現状。

関東特に都内の超大型案件のラッシュに牽引され業界全体が潤って欲しいものである。

（ＪＦＥ 鋼材東北・大柴宏和）

東　京

建産機関連需要、緩やかに好転

現下の状況は前回報告時に比較して緩やかではあるが、全体感として好転していると言える。特に店売り分野の変化が象徴しているように、幅広い分野で受注が漸増しているように思われる。

反面、鉱山機械における低迷の長期化懸念や、油圧ショベルでは一時的増産の反動減も今後は予想されており、全分野での回復までには至っていないのが現状である。

【建設機械】　7 月の統計では前年比 12 ヶ月連続でのマイナスであるが、内需が機種全般に亘って堅調で外需のマイナスをカバーしている。　前年比での落ち込み幅も減少（△0.9%）傾

向であり、底を打ちつつあるように思われる。

・油圧ショベル　排ガス規制・消費税増税前の駆け込み需要等の要因から国内向けは非常に堅調（+44.4%）。　足元は２０ﾄﾝクラスの機械のフル生産が続き、下期からは１０ﾄﾝクラスに移行する事で小型化による加工重量減は避けられないが、引き続き高い生産レベルは維持できそうである。「外需の軟調さを内需の堅調ぶりで補う格好だ」（工業会）。

・ミニショベル　住宅需要の増加による影響から国内向けが堅調であり（+17.8%）、輸出も北米向けを中心にプラスに転じた結果、関係シャーの加工量も+20%前後となっている模様。

・建設用クレーン　ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝは、内外需共に好調さを持続している。　国内向けは増税前の駆け込み、中古機械価格の上昇、公共事業を始めとする建設工事の増加期待等々の要因から、また輸出は円高修正の影響で引合いが急増しているようである。　足元の生産はリーマン前の約+15%程度であるが、今後も更なる増産計画となっており当面堅調に推移する見通しである。

ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝはリーマン以降昨年まで低迷が続いた機種だけに、ユーザーの生産計画には慎重さが見られていたが、夏前頃からは上方修正されるケースが多くなっている。　国内向けの成約も確実に増加しており、輸出関連では５～１０台の大口成約も見られる。

【鉱山機械】　資源産出国の需要激減により極端な不振となっている分野である。　それまでの生産があまりにも高水準であった反動で、加工量の減少度合いも激しく関係シャーは対応に苦慮している。　回復の見込みも不透明で、暫くは低迷が続きそうである。

【重　　電】　足元は継続案件の加工も一段落しつつあり、加工量は低位での推移となっている模様。　しかしながら、重電メーカーでは火力発電関連が内外ともに堅調で、受注済あるいは応札中の具体的案件が目白押しとなっているようである。　競争入札への移行や、部材の海外調達、メーカーの火力発電分野での事業統合等々の要因から、受注までの障害は多いものの、これらの案件が今後部会シャーの受注増に結び付くことを期待したいものである。

昇降機のエレベータ向けの加工量はこれまで昨年比で10%程度落ち込んでいたが、足元ではほぼ昨年並みに回復しているようである。　当初は建築関連が本格的に動き出した後の１４年度からの受注増を見込んでいたが、それよりも早い増産となっており、うれしい誤算と言えよう。

【板金・鍛圧機械】　板金系のﾊﾟﾝﾁﾝｸﾞ・レーザの７月受注は増加。　これは「先端ものづくり補助金の効果と思われる」（工業会）。 結果、国内向けは７ヶ月振りにプラスに転じており、今後の加工量増に反映することを期待したい。　部会シャーの状況は、北米向けのレーザ

が好調であることや、一部機種の中国への生産移管延期が稼働率アップに繋がっている要因ともなっており、まずまずの操業レベルを維持できている模様。

プレス系においては大型プレスの受注は堅調であるが、中小型プレスの落ち込みにより残念ながら全体では△14.1%。 部会シャーの受注状況は前回報告時より、汎用機や小型プレスがやや回復基調にあるようで、低迷期は脱したものと期待したい。

【フォークリフト】 ６月以降３ヵ月程の期間で加工量が増加したが、年度を通してみるとほぼ前年並みか微増といった稼働レベルである。全国的にまだまだ投資意欲が低い現状では、依然低位安定の状況が続きそうである。

【ﾀﾞﾝﾌﾟ・ﾄﾚｰﾗｰ】 １０ﾄﾝクラスのダンプは各メーカーともフル操業が続く。 排ガス規制前の駆け込みと被災地向けの需要から長期に亘り堅調さを持続している。 また重機積載用トレーラーも絶好調で、この部門における加工量は暫く確保できそう。 また北米向けの３０ﾄﾝ・４０ﾄﾝダンプの生産が急回復しているが、これは北米の排ガス規制前の作りだめが背景だけに、先行きの反動減は避けられないとみられる。

【産機 店売り】 長期に亘る低迷から、漸く受注状況に変化が見られるようになった。６月から前月比で大幅に受注が増えたシャーもあれば、８月頃から微増状態といった具合にバラツキはあるものの、今後は堅調分野からの波及効果も期待できる環境になりつつあり、末端実需の世界にも光が差してきたように思われる。 価格的にも安値は解消され始めているだけに、収益重視の気持ちを強く持ちたいものである。

（ニューエイジ・池田啓志）

東 京

浦安地区シャーの荷動き、回復の兆し

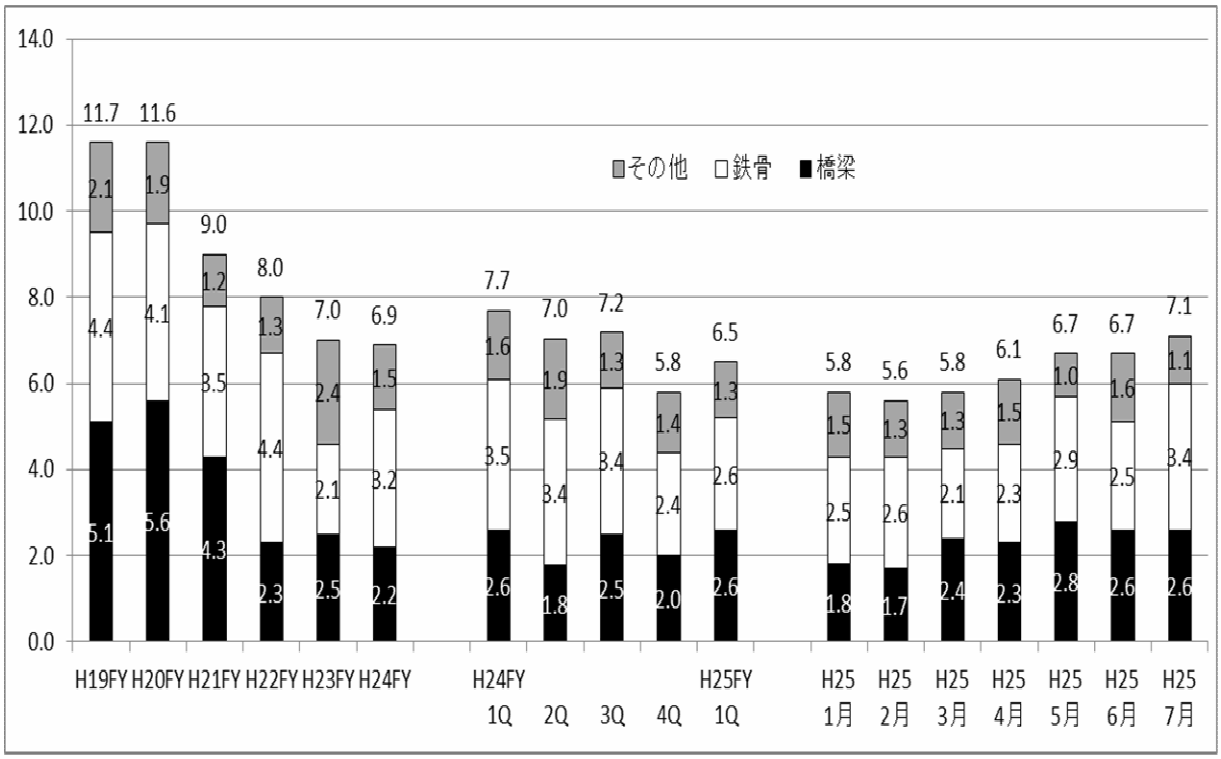
浦安地区の建材系シャーの引き合いは、７月以降増加基調にあり、建機系もようやく注文が入り始めている。今後の売り上げについても増加を予想する企業が増えている。母材値上げ分の転嫁時期は、現在様子見の状況。浦安地区の一般シャーは、全体的に荷動きが上向きになって明るさが徐々に出てきているが、母材の入手難が頭痛の種になっている。一部に選別受注のケースも散見される状況である。

（武部産業・長澤裕介）

東　京

建材分野、低位ながら回復基調

１．規格建材部会加工量推移（千ﾄﾝ/月）



２．これまでの実績

全体　主力の当地区建材分野の活動は、橋梁・鉄骨両分野とも徐々に回復しており、シャー加工量も増加基調。

しかしながら、橋梁向け絶対値レベルは未だ低位であり、鉄骨向けも期待していたレベルは下回る状態。

橋梁　昨年度後半落札案件の加工開始に伴い、当地区の一部橋梁ファブの加工量は増加し、シャー加工量も２千ﾄﾝ台後半まで回復しているが、絶対値レベルとしては未だ低位。

鉄骨　首都圏大型再開発案件が着工され、当地区Ｓグレードファブの加工量は、徐々に増加している状況。

今後更に加工量が増加することを鑑み、工程の前倒しを検討するファブもあったが、能力追いつかず、自然体に戻すケースもあり。従って、シャー加工量は、同様に増加基調にあるが、切板明細のずれなどもあり、期待したほどではないレベル。

３．今後の動向

全体　橋梁・鉄骨分野のファブ稼働は、橋梁についての不透明感あるものの、大型再開発案件の着工を背景とした鉄骨中心に今後増加基調。

シャー加工量も同様に増加に向かうが、関東地区橋梁ファブの落札足踏みや鉄骨ファブのピーク時期差あることから、本格回復は 4/四期以降となる見込み。

橋梁　全国の橋梁入札は、昨年を上回る見通しであるとともに、国交省案件が増加(H24FY：66 千ﾄﾝ→H25FY 予想：129 千ﾄﾝ)する見込みであることから、橋梁ファブ鋼材使用量は今後増加する予定。

但し、足元の関東地区橋梁ファブの落札状況は芳しくなく、今後の確定案件の山積みは低い状況。

参考1〈全国橋梁入札量推移(一部推定) 単位:千ﾄﾝ〉

	H19FY	H20FY	H21FY	H22FY	上期	下期	H23FY	上期	下期	H24FY	1/四	2/四	上期	3/四	4/四	下期	H25FY
橋梁入札量	417	324	305	283	96	171	267	100	130	230	30	92	122	51	77	128	250

鉄骨　首都圏大型再開発案件は今後更に着工が進むことから、S グレードファブの山積みも今後更に増加し、下期中には、各社ともフル操業へ移行し、その後１年程度は高位の操業レベルを維持する見込み。

シャー加工量も今後逐次増加するが、各ファブ毎のピークを迎える時期には時期差あることから、本格的回復は 4/四期以降となる見込み。

参考2〈全国鉄骨需要量推移(一部推定) 単位:万ﾄﾝ〉

	H19FY	H20FY	H21FY	H22FY	上期	下期	H23FY	上期	下期	H24FY	1/四	2/四	上期	3/四	4/四	下期	H25FY
鉄骨需要量	642	589	391	418	224	207	431	238	223	461	127	124	251	129	120	249	500

（富士鉄鋼センター・三浦潔司）

東　京

最悪期は脱したが回復は未だしの感あり

５～８月については予定通りの稼働＆実績がありました。但し内容については能力が落ちている分十分なカバーと迄にはなっていない。

今の山積みにしても春先からの物でその時点でもそこまでしかない状態でした、時間の経過に伴って山積みの消化と同時に新物件の積み上げが出来るものと思いながらの営業活動でしたが、何故かこの時期の仕事がエアーポケットのように抜け落ちてしまい空白のままとなっています。
９月以降の山積みは今現在でも６０％に満たない数字にしかなっていません。
都心部での超大型物件にしても地上部工事が７～９月から本格化すると言われていたが、それも秋口から年末に掛けてと１クォーターずれている。その後は物件が目白押し状態で２年間は継続するとも言われているようです。
　何れにしても蓋を開けてみなければ判らないのがこの建築業界の不思議な所です。段取りも余り意味もなく出たとこ勝負？の様相が多く、材料にしても多い申し込みをさせられるなど無駄な事甚だしい処です。　そういう中ではありますが確かに最悪の状況からは脱したのではと実感出来ている事も事実ですが、それもそれまでで、それ以上の動きは感じられていないのが正直なところです。ファブも実際にどこまで価格の見直し含みの新規物件が受注できているのかが不明ですが、いつまでも出るぞ出るぞと幽霊を見る訳でもないので我々の目でハッキリと見えるようになって貰い、そして現実のスケジュールの中で対応したいものであります。あと３か月建築建材の夜明けも近くなっている？？と思い頑張りたいですね。今年は隅田川花火、諏訪湖花火等大規模な花火大会が雷雨のため開始直後中止となりましたが、花火がシケッテしまうと使い物にならなくなってしまう事を思うと、話の大きさだけでは無く実行される事がどれだけ大事な事かと思わされます。
在庫
　現在の環境としては東鉄の値上げが導火線になってくれており、安値払拭、上値積み上げと具体的な動きが出始めている。
ミル状況も理由は多々有る様だが、間違いなく各品種タイトになっており、値上げと同時に材料手配に苦慮する事が想定される。その中現状は適正もしくは若干減の状態で推移しており、今後手配が遅れると切板納期対応が厳しくなりそう。

（丸東興業・秦弘志）

新　潟

環境は改善

　新潟地区の状況ですが、建築では、着工面積から算出する鉄骨量が、H24年度8万1千トンであったのに対し、4～7月までで3万6千トンと前年実績比を110％と上回った推移をみせております。土木とし

ても、公共工事である信濃川や大河津分水の河川工事で矢板約4千トンが発注されるなど徐々に動き出しており、昨年に比べると環境は大きく改善しているといえるのではないでしょうか。

大手ショッピングセンターや万代の再開発案件、学校関連はひと段落しましたが、今後の県内物件として、RC造では病院4物件や消防署などが有り、S造の物件としても、食品関連の工場や本社ビル、物流倉庫、民間の工場立替など、一つひとつの規模は大きくありませんが、昨年度に比べると確実に物件数は増えております。

地元のHグレード FAB は、関東案件含め、受注残を5～6ヶ月、Mグレードに関しても3～4ヶ月程度保有しており、秋口からの山積みを不安視していたところもあったようですが、仕事量も確保され、順調に稼動をしております。

その他の産業としましては、鉄道関連は順調に推移しており、建設機械を手がけている下請けや孫請けは好調を持続しております。

一般製缶や店売りといった分野の切板発生量も若干ではありますが増加しており、まだまだ満足とは行かないものの、産業機械、機械加工などの業種も少しずつ回復の兆しが見えているように思います。

そうした需要環境であるにも関わらず、思うように進んでいないのが厚板の値上活動です。ユーザーへ値上は表明しているものの、なかなか理解は得られず、他社との価格を天秤に掛けられるなど苦戦しております。また、どうしても工場稼動を優先し、自ら価格を下げてしまっている場面もみられます。しかし、メーカーから値上されたものが、徐々に入荷してきており、値差も減少していることに加え、今後更にメーカーの値上が考えられることから、安易に量を求めるばかりでは無く、値上活動もしっかりと粘り強く取り組んでいかなければならないと感じております。

（藤田金属・多村嘉人）

東　海

秋 需 に 期 待 大

前回、産機向けのシャーは薄日が差してきたと表現しましたが、この６月～8 月は多くの産機向けシャーで前年比をクリアして、秋に向けて期待が持てるようになってきました。

店売りシャーは、重仮設リースの物件が６月～８月に多く出て、秋に向けての土木の見積りも増えてきている事から、土木が増えそうな気配があり、又、工場用のクレーン設備も参議院選挙明けから増えてきており、安定した政権の中で、消費税値上がり前に設備をしてしまおうと言う意図が出てきました。

復興需要も確実に出てきており、今までのように瓦礫を整理する為の需要だけではなく、被災工場を再生する為の工場のライン設備の仕事も出てきました。設備といえば、前回報告した海外向

け自動車設備の切板も出始め、係わっているユーザーによって斑模様ではありますが、４月～６月よりは確実に仕事は出てきています。

一方ヒモ付きシャーも総じて好調をキープしています。

建機　リフト

前回の報告と同様に、相変わらずピーク時の生産をキープしており、海外工場が少なく現地生産化されていないので、輸出も好調で、円安を踏まえて暫くは好調に推移すると思われます。

クレーン　シャベル

鉱山用の大型建機は低迷していますが、中型のクレーンやシャベルなどは、消費税前の駆け込み需要や震災復興などが増えてきており、生産品にユーザー名も記載され、実需であるという事なので、前回よりも回復が確実なものとなってきています。

トラック

生産のピークは過ぎて、前回同様ピーク時の生産から２割ダウンで推移していますが、消費税値上げや排ガス規制の問題などある為、海外移管の話が具体化してこなければ、暫くこのままいくと思われます。

鉄道車両

相変わらず国内物は少なく、海外向けの仕事をこなしていますが、ユーザーが海外生産に移管して、海外での生産も安定してきた為、海外向けの仕事が減っていく傾向にあって２～３年先には海外向けの仕事が無くなる可能性が出てきました。

産機　鍛圧プレス

前回生産計画より上ブレして好調と報告しましたが、今回も消費税引き上げや政府補助金の影響に加え、以前から好調な北米、欧州、台湾の輸出と、暫くの間低迷していた中国への輸出が回復し始めたので、生産好調が続くと思われます。

その他工作機械

今まで低位横這いが続いていた、バンドソーなどを始めとする工作機械は、北米やアジアへの輸出は相変わらずですが、消費税引き上げ前の駆け込みや、政府補助金などの影響で国内向けが増えた為、生産が３割アップしました。

ＩＴ向け専用機

一時は材料調達から生産まで、全て海外に移管されましたが、現地の材料の製品精度が悪い為、再び国内に戻ってくるものが出てきました。

造船　デッキクレーン

前回円安などの影響で造船の仕事が戻ってきて、デッキクレーンの回復を期待していましたが、今現在、船は作ってもデッキクレーンを乗せないものも多く中々期待通りに行かないのが現状です。

昇降機

2012 年～2014 年までの生産は、毎年５％づつアップしてきましたが、中々切板を使う大型物件がなく、切板自体は減ってきていました。しかし、今年の６月以降、都内の再開発や中国向けの大型エレベーターが出てきたので、切板を使う仕事が増えてきました。

先に報告したように、産機向け店売りシャー、ヒモ付きシャー両者とも仕事量は増えてきましたが、仕入れ母材に対する価格改定がなかなか進まず、適正工賃が戴けない為、利益を出していくのに苦労しています。
それに加え、母材のタイト化や、申し込んでから入荷までに時間がかかるようになり、材料負担が増えてきた為、粘り強い価格改定が必要となってきました。

（鈴将鋼材・鈴木康司）

東　海

ファブの仕事量は、年度末まで一杯

建築関連需要は、秋口から来年夏場にかけて大型案件や物流倉庫、大型量販店を中心に更なる増加が見込まれ、建材系シャーの加工量も今後確保できそうである。地元ファブ（HおよびMグレード）の仕事量は、概ね年度末まで一杯のところが多い。こうした中、母材需給のタイト化、鉄骨価格の上伸傾向、ファブの加工能力低下による供給ネックなど、シャーの収益確保につながる環境が整いつつある。

（中部鋼鈑・南　信年）

大　阪

需要は僅かに改善傾向、秋需に期待

１．全般

（１）　需要

個社個社によりばらつきはあるものの、総じて言えば、足元の状況は、最悪期を脱し、僅かに改善傾向にある。とはいえ、依然力強さに欠けており、下期からの秋需に期待している。

店売り向けの仕事・引合いは少なく、建築も中小物件が多く切板数量が伸びず、建機も秋以降の工程に不安要素あり。橋梁向けも仕事が出ているものの期待した程の数量増とはなっていない。

（２）一般店売

各社、若干の増減が見られるが、７月・８月と大きな変化なし。

関西では、店売り向けの仕事が低調。東海地区での土木案件や復興関連の敷板売りなど、他地区の仕事を受注しているところも散見される。

２．需要部門別

（１）橋梁

入札は順調に実施され、年間発注量 30 万ｔ超レベルで推移している模様。

但し、受注する FAB は、一部の大手（横河等）に偏りが見られ、関西地区専業 FAB はまだまだ工程を埋められない状況が続いている。

下期から更なる入札実施と専業 FAB の受注を期待したい。

避難タワーの入札が月に実施され、８月から切断が本格化している。

今後、各地区に避難タワーが建設されることが予定されており、期待したい。

（２）鉄骨

大阪地区は、今後の大型案件少なく建築向け需要は期待できない。

来年はフェスティバルタワー（西地区　17 年夏完成）が動きだすかと言われているが、ショッピングセンター、物流センターなどが多く、建築向け切板の数量は、期待できない。

但し、中小物件多い分、市中のシャーへの需要になっている。

（３）建機

大きな変動はないが、足元は堅調。但し、10 月以降はコマツ関連は減少見込み。

アタッチメントの小物品などは増えることも予想されるが減少は補えない。

（４）産機・その他

産機は低位安定で変化無し。その他では土木関連が出ているという情報あり。

輸入材は、品質悪く扱いインポーター少ない。中国材は作りすぎで過剰在庫。
市中在庫向けのコイルセンターが活況。下期の材料単価上げを見越して仮需発生。
来年２月のＪＦＥ倉敷の修理停止も影響している。

（日鉄住金神鋼シャーリング・浅野博之）

（玉造・棚橋浩司）

九　州

大半の業種で需要上向き

一部の業種を除いて大半の業種で需要が上向いてきている。その中でメーカーの供給はタイトなものとなっており、瞬間的または局地的にミスマッチが起きる可能性がある。まだある程度の在庫があるため深刻なものとなっていないが、今後の懸念材料と思われる。

＜建築＞

６～７月頃から動き出した建築案件もいよいよ佳境に入ってきており、建材系シャーの稼動はほぼ１００％となっている。

年内若しくは年度内までは高稼働が続く見込みである。ファブも仕事を断らざるをえないケースも出ている。鉄骨単価も上がっているが同時に材料費やとび職人の費用もあがっており採算的には十分とは言えない状況となっている。

＜土木＞

橋梁では九州地区ファブでの大型案件は無く低稼働となっており、新規受注が待たれるところである。

公共工事の４月～８月までの受注額は対前年比３９％の増加となっている。主な土木案件では東九州自動車道・九州横断道・長崎新幹線関連

集中豪雨の復旧工事等があるが、切板需要にあまり結びついていないのが実態である。

＜産業機械＞

輸出型企業では東南アジアや米国向けで円安メリットを享受し、モーター関連・液晶装置関連・自動車搬送装置等は好調となっている。

また、国内電力関連では新ＬＮＧ火力発電建設工事や原発対策案件及び海外向け火力発電案件が出ており例年より案件は増えている。

製缶・タンク向けでは全国的に大型ＬＮＧタンク案件や石油・ガスタンクの改修工事が増えており昨年よりは忙しくなっている。

＜造船＞

受注した時の船価と仕事量によって今年度も好決算が見込まれる会社もある一方、全般的にはピーク比６０～７０％操業が大半となっている。

従い、造船各社は懸命のコストダウンを行っており下請加工業者への要求は厳しいものとなっている。

然しながら、ハンディサイズのバラ積船やＬＮＧ・ＬＰＧ船の発注が増加しており、懸念されていた２０１４年問題はやや薄らいだものとなっている。

＜シャー業者＞

８／２２、シャーリング工業組合　九州支部の報告（出席：１３社）

シャーリング各社の稼動は高くなっているものの、価格転嫁はこれからが本番という会社が大半。

産業機械や製缶向けはまだまだ増えていないとの話も３社から上がっていた。

・工業稼働

７０％台	１社
８０％台	０
９０％以上	１２
合計	１３社

（豊鋼材工業・橋本勝美）

九　州

繁忙期を迎えているファブ

〈　建築　〉

主要ファブの各社の大半が繁忙期を迎えている。

目立った地場大型プロジェクトは、JR 大分駅新ビルや大規模病院の他、見当たらないが、関東案件の流入により仕事量、移動率は高い。

物件の飽和状態と原材料の値上がりで小口案件より単価の値戻しが見受けられる。しかしながら、当地区、商社鉄骨中心のスキームでありボトムアップには至らない。

九州地区 4～6 月、前年同期比 137％伸長しているが、鉄骨価格は新規案件より値戻しか。建材厚板需給タイト化がマーケットを押し上げる可能性を秘めている。

〈　造船　〉

足元では各社、船価が上がらない状況が続いているが、商談・受注情報が多くなってきており、

船台期間を着実に伸ばしてきている。
6 月の輸出船契約実績は 140 万総トン。（⇒納期　2014 年：15%、2015 年：60%、2016 年：15%）
上記の通り、足元引き合い旺盛で、専業大手で 2015 年いっぱい(一部 2016 年)小手で 2014 年いっぱい迄線表を伸ばしてきている。2014 年度問題と呼ばれていたボトム期は脱した模様。
福岡市内では、福岡造船が約 1 年ぶりに船台での建造がスタートし、場内にも活気が戻ってきた。
同社は、その後も着実に受注しており、目先 1 年以上の工場移動を確保した状況。
下期を前に高炉メーカーとの価格交渉が大詰めとなっている。
上期中の二桁アップを目論むメーカーに対し、船価が上がらない造船所との間では、交渉が激化していたが、最終的に前下期比 4～6R +5、7～9R +10 下期スライドで決着の模様。
〈　建機　〉
建機各社は、13 年上期は排ガス規制駆け込みによる生産増も下期は調整局面に入る。
一方、キャタ向けは、10~12 月に米国向け応援生産あり（米国好調+キャタ米国工場の立ち上げ遅れあり）水準継持。
当地区においては、ヤンマー建機が非常に好調。排ガス規制向け新機種の立ち上げにより下期より垂直立ち上げの機種も多い。

（トキワスチール・岡　哲朗）

３．髙木理事長挨拶

「今回、全国各支部の代表委員から生の声をうかがって、改めて世の中の動向は大分良くなってきたことを確認させていただいた。各分野とも予想以上の速さで回復しており、秋需の期待も高まって、各地区の業況も改善してきた。最近、建築物件の出が遅れ遅れになっているケースが目立っているが、この要因としては、ファブ全体の設備能力低下という構造問題が背景にある。これに人手不足問題も加えると、対応能力の限界から、今年度の鉄骨需要量は５００万トンを大幅に上回る伸びは期待できない。この現実を直視して、量よりも収益確保を最優先すべきと考える。ここ数年来、ユーザーからの注文は、小ロット・短納期が常態化しており、このためシャーの手間ばかりがかかって一向に収益改善につながっていない。もう一度各社毎に仕事の内容をチェックして、適正利潤がとれるような体制を構築する必要がある。今がその絶対好機であると思う。」

（参考） ≡ 出席者 ≡ （順不同敬称略）

委員長・　酒匂 （京浜産業）
ゲスト・　髙木（理事長/富士鉄鋼センター）
ゲスト・　笹田（理事総務委員長/ＪＦＥ鋼材）
東　北・　大柴(ＪＦＥ鋼材)
東　京・　池田 （ニューエイジ）、
　　三浦（富士鉄鋼センター）
　　秦　（丸東興業）
　　長澤（武部産業）
新　潟　　多村（藤田金属）
東　海・　鈴木 （鈴将鋼材）
　　南　（中部鋼鈑）
　ゲスト　高木（三和鐵鋼／東海支部長）
　　〃　山村（熱金鋼業）
　　〃　岡　（東海鋼材工業）
　　〃　堀場（三和鐵鋼）
大　阪・　浅野 （日鉄住金神鋼シャーリング）
　　棚橋 （㈱玉造）
九　州・　橋本 （豊鋼材工業）
　　岡　（トキワスチール）
事務局・　柘野

４．次回の開催日時・場所

第１５９回市場委員会

平成２５年１２月６日（金）１２時　　東京鉄鋼会館８０２号室

以 上